

長野県治水・利水ダム等検討委員会 駒沢川部会 公聴会議事録

開催日時 平成15年3月2日(日)午後1時00分から午後3時45分まで
開催場所 辰野町小野農民研修センター
出席者 藤原部会長以下12名
(高橋委員、宮澤委員、河合特別委員、矢島特別委員欠席)

開 会

事務局(田中治水・利水検討室長)

お待たせを致しました。定刻となりましたので、ただ今から長野県治水・利水ダム等検討委員会駒沢川部会公聴会を開催致します。開会にあたりまして藤原部会長よりご挨拶をお願致します。

部会長あいさつ

藤原部会長

開会にあたりましてご挨拶申し上げます。今日、お忙しい時において頂きまして有難うございました。これから公聴会を始めるにあたりまして、ご挨拶申し上げます。

この駒沢川部会というのは、10月17日に第1回の会合をして以来、総合的な治水利水対策について、住民参加の下で部会を継続して審議をして参りました。現在9回を終了致しましたけれども、この段階でこの部会で検討致しました駒沢川の治水利水についての総合的な対策というものについて、住民の皆様方の意見をお伺いしようということで公聴会を迎えることになったわけです。本日は、部会の委員が出席して直接住民の皆様方のご意見を伺います。そして今後の部会での審議に役に立るといふうにしていきたいと思っておりますので、率直なご意見をお願い致します。短い応募期間、10日間しかなかったのですが、その間に公述人の申し込みが36名ありました。1名の方は期日を遅れてのことだったものですから、その方は意見だけを出して頂くことで35名の方が、一応、公述をして頂くことでお願いをしているわけです。今日、その35人の中でおいでにならない方がおいでのようですが、28名の方がおいでになっているだけでおいでにならない方がいるのですが、できるだけ多くの方のご意見を聞きたいというふうに思っております。当初公募の時には25名ということで申し上げたのですが、今回とにかくおいでになった方全員の方にご意見を伺うということで部会の委員の方のご了解も得ておりますので、そのように計らっていききたいと思います。ですから、4時という時間が若干30分くらい延びるかもしれませんが、その点はご了承を願いたいと思っております。ただ25名というのを30数名の方全員の方をお願いするということになると、時間的な制約もありますので、一応5分という時間は厳守して頂くということでやって頂きたいと思っております。今日皆さん方のご意見を踏まえて、次の部会8日に予定しているのですが、その8日の部会とこの皆さん方のご意見を反映していくというふうに考えておりますので、率直な建設的なご意見をお願い致します。以上簡単でございますがご挨拶とさせていただきます。よろしくお願致します。

事務局(田中治水・利水検討室長)

有難うございました。本日ご出席の委員のご紹介をさせていただきます。部会長から向って右側に松島委員、矢ヶ崎委員、宇治委員、牛丸委員、小澤委員、それから皆様方に向って左側になります。小澤委員、神戸委員、根橋委員、原委員、山本委員、以上の委員の皆様方でございます。それではこれから公聴会を始めたいと思います。部会長の方で進行をお願いしたいと思います。

治水・利水対策案の説明

藤原部会長

それではこれから始めることに致します。先ずこの部会案の説明を私の方から致します。これはすでにお手元にお配りしてあるA3の2枚のものです。これについて若干説明をさせていただきます。1ページ目には駒沢川の治水というふうに書いてあります。それから2ページ目は治水対策案、それから3ページ目には辰野町の小野地区の利水というようなものが書かれております。

こういうようなことで、先ず1ページをご覧頂きたいと思います。治水について私たち部会で色々検討を致しました。ダム案についてはすでに皆さんご存知だということなのですが、もしダムによらない総合的な治水・利水だという場合にはどういふことが考えられるだろうかということで、まとめたのが1ページ目に書いてあります。ダムなし案とダム案というふうにまとめてあります。この1ページ目の左側のところには洪水被害の状況とか、そこら辺の点のことが書いてあります。また、治水計画についても書いてありますのでそれをご覧いただければいいと思いますが、一応、30年に1回の確率、1/30確率ということで計算を致しまして、そして基本高水を5.2m³/sということで計算をしております。

現状ですけれども、ダムの計画ではこの5.2m³/sの基本高水の内、ダムで1.6m³/sを調節して、そして河道には3.6m³/sを流すというふうな計画で、現在、河口の合流点のところから上流760mまでは、一応、余裕高60cmを含めた3.6m³/sの河川改修事業が完了しております。こういうような現状を踏まえて、この1ページ目の右側のところですが、治水対策案というものを部会で審議した結果、まとめましたのでご覧頂きたいと思います。

先ず、先程申し上げましたようにこの治水対策案は1/30確率、そして基本高水をJRの鉄道の地点で毎秒5.2m³/sということで計算致します。そして先ず、ダムなし案ですが、ダムなし案においてはダムによらないということで河川改修というものでその部分をやっていこうという計画になっております。内容については堤防の嵩上げと、それから拡幅というふうなものでやっていこうということで皆さんがご覧頂いたような状況になっておりますが、概算費用は11億3千万円が予定されております。問題点として、堤防嵩上げということになりますと橋の架け替えというふうな問題が起こってきます。それで橋の架け替えに伴って若干の方の家屋移転と、それから用地買収、その他が関係してくるのではないだろうかという問題。それから国道153号の橋を架け替えるということになりますとあそこで交通止めとか仮設道路の確保とかそういう問題も起こってくるということになります。それ以外に堤防を嵩上げしますと、堤防のそばの宅地で出入り口の段差が出てくるというふうな問題もありますし、また洪水期の時には水質保全とか洪水期における魚等の成育等に必要な河川維持の維持流量の確保というふうな問題も起こってくるということがあります。先ず河川改修が必要だろうということで11億3千万円、それから更にそれから上流部なのですが、侵食によって土砂流出があったりするというふうなことで、一応

侵食防止の工事をするという事になってこれが大体3億5千万円、大体こういうような経費がかかるだろうと、ですからダムなしでやるという場合には治水対策としては、合計して14億8千万円という概算費用というものを計算致しました。

ダム案の方は、ご存知のように59億円というのがすでに提示されていますので、ダムによる治水の場合には59億円ということになります。このところで問題点としては、生態系の問題とかそれから費用対効果の問題、更にこの所には霧訪山断層がありまして、これが地震の時、東海地震などの時にどうだろうかというような問題も部会で検討したことがございます。そういうようなことで、治水対策案としてはダムなし案、ダム案と2つの経過を提起してあります。

共通として森林整備ということがあります。森林が緑のダムとしての保水力があるということでは皆様方ご存知だと思います。これはダムがあっても無くてもしなければいけないということで、この上流の森林の整備を行うということで当面66haの間伐を考えておりますが、これに必要なお金というのは3千万円ということになっております。この費用についてですが、ダムなしの時に14億8千万だとか、ダム案が59億とか言っておりますが、この費用について特にダムなし案のものについては、これは概算ということで正式な計算はしておりません。ある程度、部会の案が出た段階で検討委員会の方で財政部会というのがありまして、財政ワーキンググループで計算をしてもらおうということになっておりますが、この前まではこの数字は概算ということととって頂きたいと思っております。あと、駒沢ダムの断面図もありますのでこれもご覧になっておいて頂きたいと思っております。

次に2ページ目です。2ページ目ですが、ダムによらないという場合には、やはりこの760mを超えるところの河川の問題というのが起こってくるわけで、その為に侵食防止ということで色々な工事を考えます。その工事の為にどれくらいお金がかかるだろうかと計算したのがこれが先程の3億5千万円というお金です。しかし、この3億5千万円というのは、これは一番多分かった時にはこれくらいかかるだろうというふうに考えておりますが、例えば布団籠とかそれから蛇籠でやればもう少し安くあがる。しかし、一応、最大を見積もるということで3億5千万円と考えております。こういうようなことで皆さん方に見て頂いたのは、治水対策案のダムなしの場合にはこういうようなこととなります。下流760mについては、これは河川改修として計算するという事になっておりますので、これもご覧になって頂ければいいと思っております。尚、どういような侵食防止の工事をするかというイメージ図というのが、この2ページ目の上の方に書かれておりますので、それもご覧になって頂きたいと思っております。

それから次は3ページ目のとこの辰野町小野地区の利水というところでご覧頂きたいと思っております。利水の場合は、水道用水と農業用水、それから河川維持流量というような問題があるわけですが、そういうようなことを検討した結果をまとめたのがこの利水の原案です。先ず、小野簡易水道の現状ということでここに書いてありますが、まだこの中では皆さん方が一番心配なさっているヒ素の問題があるということがあります。この問題についても部会では色々検討してみました。それから2番目の小野地区の農業の現状ということについても議論を致しましたのでこれもお読みいただければわかると思っております。それから3番目の農業利水の経緯、それから利水の問題点というものについてもここに書いてあるとおりですが、1つは先程申し上げましたとおり大きな問題としてはヒ素の問題があるということですので。このヒ素の問題について部会でも色々

審議をしたという経過があります。それを踏まえて3ページの右側の所に利水対策案というのを作りました。これはダムによる案とダムによらないというようになっております。前提条件として水道用水がどれ位要るであろうかということで、ここでは平成22年の水道用水の必要量は1000m³/日というふうにしております。利水ワーキンググループというのが検討委員会の中にありまして、そこで計算したのは880m³/日だったのですが、やはり諸々のこれからの問題を考えていくというような段階で、1000m³/日というふうに、一応、前提を作りました。それに基づいて計画を立てております。ダムによる場合には下に書いてありますように、この水道についてはきちんと維持できるというようになっておりますが、もしダムによらない場合にどうするかということについてダムなし案というのを見て頂きたいと思いますが、水道について、これは春宮地区におよそ70m程度の井戸を新たに開発する。そして水道に必要な水量を確保する。大体は新規の井戸で400m³/日、その他の水源で600m³/日ということで1000m³/日になるということになります。概算費用として、初期投資は1億5千万、この内の地元負担が8千万、それから100年換算というのは100年間の維持費その他をずっと入れてということなのですが、一応、計算はするのですが、私達検討委員会では、この意味があるかどうかというようなことでいっておりますが、一応、初期投資だけを見て頂くと初期投資は1億5千万と、内地元負担が8千万円ということになります。ただ、先日、21日に長野で検討委員会がありました時に、この初期投資についても県が補助する、全額ではありませんが補助をするというような話が出ておりますので、この8千万円が少し少なくなるだろうと思います。水質、水量が適当であるかどうかというのは、これはまだ地下水ですからわかりませんので、調査をするということになるわけです。この調査の費用についても県が調査の費用の50%を負担してくれるというのが、新たに県の方から提示がありました。それを踏まえてこの水質、水量が適切であるかどうかを先ず調査をする、そしてそれが適切であるということになれば井戸を2本掘るという計画になっております。これが水道用水です。

それから農業用水についてですが細洞ため池を掘削をして少し掘り下げれば2.6万トンくらいの量が確保できるのではないかと。これの初期投資というのが3億3千万くらいかかるというようなことが出ております。これで農業用水の必要量が確保できるかという問題、それから細洞ため池というのは霧訪山断層の破砕帯のすぐそばにあるので、ここのところのため池の安全性の問題、それから3億3千万というのの一部国庫補助があるのですが、それ以外は受益者負担というような問題も残されているというようなことが出てきております。こういうようなのが、今、ダムなし案ということで水道、及び農業用水についての方法とそれから経費です。

それに対してダムの場合はどうなるかと。これはダムによって水道用水も農業用水も確保できるということになっておりますが、費用の所を見て頂きますと初期投資が3億5千万、内、地元負担が1億7千万ということになっております。100年換算では7億6千万というふうになっておりますが、このことについても先程と同じで100年換算という意味というのはちょっと置いておいて考えて頂いたほうが良いのではないかとこのように思っております。こういうようなことで、部会ではダムなし案、ダム案というのはすでにできている案とこの2つを対比して、今日、皆さん方に意見を伺って、そして、部会としての方向を決めて検討委員会に報告をして行くというふうに思っております。そういうことで忌憚の無いご意見を今日お聞かせ願いたいと思

いますので、よろしくお願い致します。

公述に関する留意点

事務局（田中治水・利水検討室長）

それでは事務局の方から進行について留意して頂く点について申し上げます。本日の公聴会では質疑応答はございません。それから公述順は、先程、抽選結果の順番によってお願い致したいと思います。整理番号と公述順とは一致しておりません。部会長が整理番号とお名前を申し上げますので、公述される方はマイクがございますがその前へ出て頂きたいと思いますが、公述される方は、先ず、住所と氏名を仰って頂いてから、意見の公述をお願いしたいと思いますが、住所は番地等は要りませんので大字までで結構です。そこで時間は、先程、お話がありますように5分以内ということでお願いします。4分30秒でベルを1回鳴らします。それで5分になりますとベルを2回鳴らしますので、2回鳴りましたら速やかに公述を終了して頂きたいと思いません。ちょっと鳴らしてみますので、4分30秒です。それから5分たったら2回鳴らします。よろしいでしょうか。そういうことでお願い致します。それから傍聴されている方に申し上げますけども落ち着いた環境の中で公述して頂きたいと考えておりますので、進行の妨げにならないようをお願い致します。以上です。それでは部会長の方で進行の方をお願い致します。

意見聴取

藤原部会長

それでは始めます。先程、抽選をして頂きまして公述順が決まっていると思いますので、それをお願いしたいと思います。先ず1番の方ですが整理番号23番、吉沢光雄さんをお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

吉沢光雄

宮木の中央に住みます吉沢光雄と申します。南箕輪村の役場にお世話になっております。行政の公正性の確保と、財政の観点からダムなし案を支持する立場で意見を述べさせていただきます。

第1点目はダムの必要性和規模の妥当性の問題です。ダムの集水面積が139haと聞いてびっくりしましたし、間違いではないかと思いました。139haといえば、私が2年間勤務しました大芝公園とその周辺に残る村有林を足した面積にも満たない面積だったからです。公園一帯は緩傾斜地4.6パーセントの傾斜地でして公園利用による森林土壌の流失防止や植生回復の試みをやっていたので、大雨が降った日などはマレットゴルフ場などを見回ったのですが、地表を流れる雨水は植生が回復している区域で地下に浸透しておりました。駒沢川だと地形や地質、30年確率の違いは当然ある訳ですが、それでも大芝公園区域から流出する雨水の為にダムが必要だという話もなければ話題になったこともありません。同じ南箕輪の例ですが、中央アルプスの北端、経ヶ岳山麓に源を発する住宅地を流下する一級河川の大清水川と準用河川の戸谷川は10年20年程前に何回か氾濫を繰り返して被害が発生していずれも河川改修で対応しましたけれども、その後、被害は出ておりません。地図などで見ても集水面積、河川延長等、駒沢川と変わらないと思いますけれどもダムはありませんし、ダム建設の話も聞いたこともありません。

駒沢川の状況とそこでの被害のようなケースは上伊那にはかなりあるのではないのでしょうか。この駒沢川の論法でダムが必要とするならば、行政の公平性の確保の観点から言えば、上伊那や県下に無数のダムを建設しなければならないと思いますが、そのようなことができるのでしょうか。駒沢川ダムと同程度の集水面積150ha以下で、高さ40m級のダムは日本に3つありますが、2つは本ダムの機能を補完する為の副ダムで、もう1つは離島の水を確保する為に設置されたものだそうです。139haという少ない集水面積で治水を目的に高さ40メートルというダムを本川に設置するのは駒沢川が日本でははじめてのケースになるのではないのでしょうか。私は、もし駒沢川に計画されているようなダムが造られれば、この時代にこのようなことをしていたのかというような反省材料として孫子の代まで全国に名を残しはしないかというものを危惧するものです。

2点目は財政的な観点から見て河川改修を支持します。ダムは最終事業費が当初事業費を大きく上回るのが通例です。長野県河川課が平成14年2月に明らかにした県内ダムの事業費改定状況によれば、15年に完成予定の小仁熊ダムの最終事業費は当初事業費の3.47倍。浅川ダムはまだ本体に手をつけていない段階で、すでに当初計画の3.2倍の事業費になっております。県が示した17ダムの当初事業費に対する最終事業費の膨張率は1.87倍です。この膨張率で計算すると、駒沢川ダムの最終事業費は110億3千万円になります。駒沢川部会の治水対策案を見れば、ダム案はダムなし案よりも44億2千万多いのですが、県下の平均的な事業費の膨張率を考えるとその差は100億円に近いものになると考えるべきだと思います。辰野町の一般会計当初予算案は75億4千万円です。44億あるいは100億という額は大変な差の額です。今、国も長野県も市町村も財政難に喘いでおります。借金の原因は、所謂、無駄な公共事業に多くの税金をつぎ込んできた為だと言われています。その為に国民住民は負担増を強いられ、医療福祉教育が切り捨てられ、公務員の給料は引き下げられております。新聞報道によりますと、辰野町も財政難のために高齢者祝い金の年齢引き上げなど15年度予算で総額2350万以上の負担増が住民に求められようとしております。今、公共事業を原点に立って見直して、必要な事業も身の丈にあった規模で行うという事はもっとも大事なことでないのでしょうか。国の予算も県の予算も皆、私達の貴重な税金です。事業費の差を見ればダムなし案の選択の余地はないと考えます。駒沢川の状況を冷静に見て、上伊那や長野県全体の治水を公平に進めると行政の原則に立ち、財政状況を見ればダムなし案の方向で事業を進める事が地元を含めて、もっとも懸命な選択だと思います。部会の賢明な結論を期待して意見表明を終わります。有難うございました。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして2番の方をお願い致します。整理番号11番、原永憲さんお願い致します。

原永憲

辰野町小野に住みます原永憲と申します。ダム建設につきましては数値で示された資料に基づいた対策案を基本とした進め方だけでは決して好結果を得ることはできないと思います。駒沢川の治水対策はこれまで何回となく打ち出されて実施もされてきました。しかし、上流中流に治水

対策として改修工事をされてあった2ヶ所の遊水林地点も浸食による土砂の流出、倒木等により何年も前に跡形もなくなっております。ダムなし案の対策では同じ過程を踏むことになることと思います。過去、塩嶺トンネルの開通工事により水脈が変動し、小野地区内の湧水がほとんど枯れ、利水状態も急激な悪化となり、あらゆる対策をしてきたわけですが、現在も渇水時には駒沢川から取水している大洞、細洞のため池に利水を委ね、節水を余儀なくされております。上水道は勿論、下水道も各戸に普及されてきた今日、現状のままでの取水では、水道水源の貯水の維持も不可能な状態となっております。小野地区の利水状況を把握される中、是非とも駒沢川ダムの建設の遂行をお願い致します。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして3番の方をお願い致します。整理番号28番。一ノ瀬静子さんお願い致します。

一ノ瀬静子

辰野町川島の一ノ瀬静子です。小野地区の治水利水、特に水問題の解決策がダムによる方法しかないという明確な根拠が提示されて町民県民の立場で納得できるものであるのならば、私達の税金がそこに使われることに合意しますが、この間、色々勉強させて頂く中で、ダムによらない方法で解決することができることを知りましたので、ダム以外の方法での解決をして頂きたく発言致します。税金の無駄使いはノーという趣旨の発言です。先程のお話のようにダムの場合では60億円余のお金が必要なこと、ダム以外の方法では井戸2基の新設等1.5億で可能なこと、治水で約15億、これを比較すればどちらの方法で良いか一目瞭然です。現知事以前の県政時代に作られた赤字がどれだけ莫大であるのかが、新しい県政づくりの中で県民に明らかになってきました。利息だけで1日1億3千万の返済という信じがたい状況です。このように深刻な県の財政の中で、知事や議員の報酬のカット、そして公務員の給料のカットまで、様々の努力や見直しがされております。全国2位という赤字県にした失政の責任をとってほしいと正直訴えたい思いです。

私は医療介護の現場で仕事をするものですが、在宅での生活が困難で特別養護老人施設を利用するしかないという方々がその施設が不足しているために病院や老人保健施設を点々としている状況でおられること。また、何とか在宅でホームヘルプサービスを利用しながら施設を待っている待機者が平成14年3月時点の調査で県内2890名おられます。そして、この方々を介護をする介護者が病気等で困った時、緊急的に避難するショートステイ等の施設もまた不足しているのも現状です。これら1つをとりましても税金の使われ方は皆で十分検討されなければならないと強く感じています。

次に民意の反映集約という点についてです。当初からダムありきの理念で進んできた行政区の中で、どれだけ区民ひとり一人の意向が集約されているのかという疑問です。本当にダムは必要であろうとか、あそこへダムを造ったって水は溜まらないよとの声は地元が存在しております。しかし、ダム論で進んできた経過の中では、地元であればこそ、また、しがらみも強く本音が言えない状況も多々あると推測しております。そのような声なき声の実態が把握されているのでし

ょうか。これまでの例で、役員とか上に立つ人の意見が必ずしも民意を反映、代表してなかった例はいっぱいありました。小野地区の住民の皆さんのどれくらいの方々がダム絶対論でしょうか。時間があれば一切を情報公開して住民、町民投票が望ましいと思いますが、その時間は無さそうです。下諏訪町は、利水治水はダムによらない方法を住民の方が町長改選という形で示しました。多くの方が今飲んでいるおいしい水をダムによってまずく更に高い水道料金を払って飲みたくはない。治水も河川改修で十分という意見でした。最後にダムにも寿命があります。また堆砂、砂の溜まる対策など造りっぱなしでは終わりません。すでに砂がいっぱい堆積したダムによって水が流れない川など事実が示しています。皆さんは美和ダムの現状をご存知でしょうか。一度見に行ってみてください。維持には莫大な金がかかるということを示しております。皆で何のために、誰のために今何が必要か、その為に税金はどのように使うべきか十分検討したいものです。是非ダムによらない方法でより安全で美味しく、そして水道料も安い水の検討をして頂ければと思います。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして4番の方、整理番号12番。赤羽敬一さんお願い致します。

赤羽敬一

辰野町小野、赤羽でございます。ダム建設運動の経過を踏まえながら意見を申し上げたいと思います。

駒沢川ダムは平成5年国庫補助事業として、採択されて以来13年の脱ダム宣言までずっと調査費を使って、そして地質調査、水文調査、流量観測等を行ってきたわけで、その間平成9年7月には橋本内閣の財政構造改革ということで、公共事業費7%削減ということがありまして、駒沢川ダムもちょっと危ないぞということで、急遽、建設省に陳情致しました。その時に河川局長は金がなくてダムはできないと、難しいということでありましたけれども、駒沢ダムは多目的生活ダムであるからなんとしても必要なものだ、だから極力建設に向けて進めていきたいと、そういう前向きな言葉を頂いたわけでございます。そこで帰って来てダム早期建設を進めるには、どうしても期成同盟会を作ることが必要だということで、駒沢川ダム建設促進期成同盟会を10年の10月に作りました。それからすぐ県の土木部へ陳情に参りました。非常に前向きな対応を頂いたわけですが、その中で県の土木部長が駒沢ダムは生活貯水池だと。極めて小規模なものであるけれども、規模の大小に関わらず決壊ということが一番心配だから、今、その安全性ということで十分に調査を進めていくという話でありました。それからしばらくして伊那建の説明会で、霧訪断層は500m離れておって、まあ心配ないという安全宣言を頂いたわけでございます。ということで私は、この国が絶対必要であると駒沢川ダムは。また県の駒沢川ダムはあそこに造っても安全であるとそういうことでございますので、永年、小野地区の懸案であり願いでもありました。1つには治水洪水防止、それから第2には利水水道水の供給、また第3には環境、農業用水、河川維持用水の確保とこういう多目的を一気に実現するには、やはり駒沢川ダムを造ることが一番じゃないかなあとということを思いまして、是非、駒沢川ダムを造って頂きたいと、

地元として、そういうことをお願いするわけでございます。今まで検討委員会が進んできまして、ダムなし案で利水案、この井戸を掘ってということでありまして、今まで旭水源では赤渋、途中でもって水が無くなってしまうそういうことがありました。また、下町水源ではヒ素混入ということがありまして、井戸で2つともどうも水道水として不適當ということが出ていますので、万が一この春宮へ井戸を掘ってそして新しい水源を求めるということでしたら、県でもって十分に調査をして頂いて、そして良質の水を十分に豊富に供給して頂けるように、その点だけは是非お願いしたいとそういうことで意見を申し上げました。よろしくお願い致します。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして5番の方、整理番号34番の小林光夫さんお願い致します。

小林光夫

大字辰野から来ました小林光夫です。先ず通知の主旨というところで建設的な意見を述べて頂きとありますが、こういう問題に関して建設的というのはどういうものなのかなあと。どういうことに対しても建設的に考えるということで、やっていければと思います。私の立場を正直申しますと、気持ちとしてはダムなし案が正解であってほしいと思うものです。言わばダムなし支持のための支持者になります。どちらかの案を支持かと聞かれればわからないということでありまして。今までも砥川について何回か現場に足を運び、見たり聞いたりして実感を得るよう心がけてきました。砥川部会の公聴会には2回ほど参加しまして、皆さんみんな説得力があって感心したわけで、自分もそんな所で言えるのかなあと思っていた訳でして、今日聞いてもう4人の方聞いて皆さんしっかりとそういう立場のことで関心があってとても考え深いものがあります。構図としてはダムなしは大雑把に自然環境保護目的であり、ダム建設は生命生活の目的というのは大雑把なところですよ。別としてダムなしで河川改修中心の治水の方が自然破壊につながるのも有力意見であります。一筋縄では行かないところもあります。極論を言えば自然保護か、治水人命保護ということになります。この一見相反することにつきまして一人の人のなかでもそれぞれ葛藤することであり、表と裏が分かれることだと思います。私は自分自身含めてこうした人の心の中の根本を追求して行きたいです。これは聞いてきました立場でどうしても片側に寄るといふ、そういう場面もあるし、そういうことも是非聞いていきたいと思えます。とにかく生命生活は安全が一番大事ですので、私としましては重大な決断をしなければならないというジレンマがありますし、自分自身の中でも本音としてはありますが、そういうことに対して正しい答えの方に言わなくてはならないという自分自身も追い詰めていけるような、そういう形でしていきたいと思えます。流れとしまして、浅川、砥川、上川とダムなし案と来ておりまして、宮地委員長がそんな所でもダムなしというのが何か流れのような気がしますけども、とにかくそういうことじゃなくここ駒沢においてしっかりまたそういう流れとは別にここに議論して、もう1回議論してしっかりと答えを出せればと思います。今ちょっと聞いた案を見たところによると、まだダムなし案ダム案にしる検討材料がまだ幾つもある訳で、これを検討して調べなくてはならないというものがあったようなので、答えを出す段階でもないと思えます。答えを出してこの部会、検討委員会で

決定されてもそれは永久的なものではないということで、それは今までもそういうことでダムを造るとしてきたものをそこでストップしたりとかそういう前例がありますので、ここでしっかり検討するのですが、永久的でないというものも皆さんは常に考えていることであってほしいと思います。以上で終りにします。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして6番の方、整理番号19番、宇治清一さんお願い致します。

宇治清一

小野に住んでおります宇治清一ですけども、私はこの地に住んでいまして、やっぱり一番必要なことは生活に必要な水ということで、ダムに賛成するという立場でお話させて頂きますけども、こういう自然豊かの中に住んでいながら地下水に頼ると。地下水は今問題になっていますように、下町水源にヒ素が出るというようなことがあります。そういったことでダムを造っても一番迷惑するような方も居るわけじゃない。山の中に造るわけであって、しかも自然保護という意味においてもダムを造ることによってある程度の治水もできるということで一番良い方法であるのじゃないかなと。特に利水の点を考えていきますと、今まで塩嶺出水の関係で下町水源を掘ったわけですけども、そういった中で、地下水にヒ素が入っているというようなことについては、当初そういう話はなくて段々そういったことが広まってきたということで、要するに地下水というのは何が入ってくるかわからない。こういったことを心配しているわけです。もう一つ、ダムを造って何故良いかということは自然流下、要するにダムはこの地に於いては、標高の高い所にできるわけです。ということで自然流下で配水ができるということについては、当初お金はかかってもランニングコストは少なく済むということで、将来的に見て、是非、金のかからないそういう方法を選んで頂きたい。それから深井戸に頼るということですけども、深井戸に頼るということは、常時、金をかけて揚水をしなければいけない。要するに電力を使うということは地球温暖化の1つを取っても、逆行することである。是非、そういうことの内容に前向きに検討して頂いて、ダムを造って頂きたい。以上でございます。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして7番の方、整理番号3番の小澤浩さんお願い致します

小澤浩

私は辰野町小野に住んでいるものでございます。小澤と申します。私はこの部会も欠かすことなく拝聴しておりました。農業用水、水道用水、河川維持用水の確保はダムありきでございます。水田のしろかき期、夏場の湧水期に温水ため池の細洞、大洞の併用で不足分はダムで賄う。また部会では駒沢川の流量では干害の為の必要水量が少ないと言われておりますが、これは伊那建設事務所の流量調査でダム貯水量が割り出されておるので心配はないと私は思っております。秋より梅雨期までにダムは満水となります。治水についてダムなし案では、下流域の堤防嵩上げ拡幅

としているが、この地籍では、土地が狭く家屋の移転が難しい。また部会では既往洪水の状況は30年に1度としているが、台風、梅雨前線豪雨等は、2から3年に1回は来ております。ダムに頼るほかはないと私は信じております。基本高水はダムで受け持つので河川で調節できるダムなし案では新しく春宮地籍に深井戸を掘削としているが、この地籍は私が昔から言い伝えられておりますことを聞いておりますと、岩盤上に霧訪山よりの土砂崩落があり、この崩落し堆積した土地が春宮地籍でございます。それゆえに必要な水量が確保できるか心配でございます。また井戸水利用は辰野中央水源事故が私は思い出されます。利水・治水の主力はこの地域の住民の意思であり小野区民の悲願である安全である水を望むものであります。以上でございます。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして8番の方、整理番号32番の永原良子さん。

永原良子

私は辰野町宮木に住む永原良子と申します。2人の子供を持つ主婦の立場で意見を言わせて頂きます。小野の豊かな自然の中でおいしい水を飲み続ける方法がダム以外で実現できれば私はそのほうが良いと思います。今、全国のダムの現状を見ても、また美和ダムの大掛かりな工事の様子を見てもいずれ砂で埋まっていくダムを造るよりも、森林整備をして緑のダムとしていった方が長い目で見て良いと思います。また、今回勉強する中で、今、ダムの水は昔と違い大腸菌や、クリプトスポリジウムやという汚染などがあり、飲料水としては危険性があるといわれているので、とても心配です。またダム本体は国や県で造ってくれますが、そこから水道用水を得るには取水施設や導水管、浄水場、送水施設が必要で全額地元負担です。その費用の総額1億7千万円は地元の水道料金に跳ね返ってくると思いますが、地元の皆さんが負担できるか心配です。負担面から考えて私はダム案に反対します。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして9番の方をお願い致します。整理番号6番の小澤薫さんをお願い致します。

小澤薫

私は小野に住む小澤薫でございます。私はダムを設置し、小野地域の飲用水、農業水の確保をし、地域住民のため有効利用を期待しています。現地説明会にも知事さんもお見えになり、現地を理解して頂いたかと思えます。駒沢ダムは永年懸案であり再三陳情した経緯もあり、ダムに期待しておるところでございます。今、検討されている下町水源については、ヒ素が含まれているということでこの除去を検討中とは言え、この水を永久的に飲むことは問題があります。また、春宮上の水源を100%良水が得られる保障はないと思います。また、その水源地域にも影響を及ぼすことが予想できます。地域住民の健康管理を考えてください。そして地方自治体の財政支出を考えると町村単位の出費は非常に困難だと思います。県、国でダムを是非造って頂きたいと思えます。以上で終わります。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして10番目の整理番号22番の小野能正さん、お見えになっておりませんので、この方29番目に廻しますのをお願い致します。

次に11番目という順番になっているのですが、整理番号7番の田中嶽次さんをお願い致します。

田中嶽次

大字小野の田中嶽次と申します。先般意見を述べさせて頂きましたので、ダブらないようにして行きたいとこういうふうに思います。前にも申し上げましたけれども、霧訪山は中央アルプスの北限でありまして、非常に雨量の多いとこだということは私だけではないと思います。そしてこの水が集中豪雨になって、小野川へそそぎ込むわけでありまして、これは申し上げているように駒沢川だけではなくして、高橋川、唐沢川という3本の川にまたがって流れていくわけでございます。ご案内のように駒沢川につきましては、非常に災害の多いところで、必ず梅雨が秋雨によりまして災害が起きて、国、町にお願いしておるのが現況でありまして、時には自然の崩壊あるいは家屋の浸水というような、非常に大きな災害が出てきた経過があるわけでありまして、そこでダム、色々のご意見があろうかと思っておりますけれども、地元と致しましては、是非ダムを造って頂く中で、水の調整をやって頂き、氾濫のない郷にして頂きたいと思うわけでありまして、

また、利水について申し上げますと、塩嶺王城の公園から始まって、この地に不安を残したのは、昭和50年始めに塩嶺トンネルが開通をする為の工事が始まった時点でありまして、これによりまして、当地区、小野地区におきましては、深井戸水がなくなりました。これは46年に委員の皆さんご案内のように、旭水源を掘って飲料水にしてきたわけですが、これが枯れました。従いまして、国鉄さんが、当時は国鉄でございますので、慌てて地元の皆さん何か対策はということで、今ヒ素が出る下町水源を使って間に合っていると、このような状況にある訳でございます。ですから、中央東線が向うへ廻ってから、この豊かな水の郷が一瞬にして枯渇をされてきたということは、事実である訳でございます。これを補う為には、是非ダムをお願いしたいと思っております。特に深井戸を先生方は申し上げますけれども、深井戸については今まで何回となしに探査をして参ったわけでありまして、委員の皆さんが申し上げている春宮のところでありますけれども、私はあそこは水は出ないことはないけれども、非常に良い水ではないかというように思っております。これは掘ってみなければわからないことですが、ヒ素は出ないでしょうけれども、渋が必ず出ると、鉄分も出る。除去すれば良いと言うかもしれませんが、それと加えて、先般ご覧頂いた江戸の沢というのがございまして、あの田んぼの水源は、ほ場整備をやった地下水を利用して、今、水田耕作に当てている訳でありますけれども、水田も減反という非常にこういう時代でございますので昔ほどではございませんけれども、水争いが絶えないところでございます。それで暗渠排水の水を再度皆さんが利用して何とかクリアしているというのが、今の現状であろうかと思っております。それをダムによりまして、水の心配がないようにするには、やはり細洞ダムもありますけれども、細洞のため池については、今、維持管理適性整備事業ということで改修をしてぼつぼつ入水をするようにしております。そんなような状況の中で、年間を通じて安心

で安全で安い水を供給して頂くように小野の皆さん望んでいますので、私も是非お願いをして終わりと致します。よろしくお願い致します。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして12番の方ですが、整理番号13番、小澤一智さんお願い致します。

小澤一智

小野に住みます小澤と申します。先般検討委員会より両案が出された訳でございますけれども、私は次の理由により、ダム案を強く希望するものでございます。

1としまして、治水については堤防の嵩上げにて対応するとしていますが、過去の災害を見えますと、この川が急峻な地形の為、降った雨が、40分くらいで小野川の合流点まで達すると先日も検討委員会の中で言われておりましたが、それほど急で水流が早い為、駒沢川の河床を削り、その水が護岸に廻ってしまい災害を起こしております。また川の右岸からの土砂崩落、倒木等がこれに拍車をかけているのが実情だと思っております。急峻な地形ゆえ、降った雨が一度に流れて下ってしまい、渇水期には水不足となり、農業用水の不足や、川の流域に生息する生物等には過酷な生息条件となります。このためも、ダムにより安定した流量を保証するのが、環境にも良い影響をもたらすのではないかと思います。また川の中流域、休戸地区の右岸、河床より約10m上には大きな亀裂が入りまして、応急処置はされていますが、大雨が降り、山側が削られれば大きな崩落が起きる危険性もあります。また右岸はそのほとんどが民有林であり、その工事は所有者が行うとありますが、現状ではとてもできるとは思いません。

2番目と致しまして、飲料水は春宮地区に井戸を掘り水量を確保するとありますが、小野は山が浅く、地下に豊富な水を期待できません。その証拠が旭水源です。始めは水が出ていましたが、数年で使用できなくなっております。その近くに春宮があるわけです。同じことになるのではないのでしょうか。またその近くで、現在、農業で使用している湧水が枯渇しない保証もありません。また、せっかく井戸を掘ってみても、その水が飲料水に適しているか水が出てみないとわからないと思います。これより安全で美味しい駒沢山の表流水を区民としては選択したいと思います。

3番目として、農業用水として細洞の掘削を行い、確保するとありますが、昭和初期に建設しその下を霧訪山断層が通っているため池にこれ以上水を入れることは危険だと思います。また改修するにしてもその費用を受益者負担なしで行えるのでしょうか。その点も明確になっておりません。以上の理由により、ダム案を希望するものです。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして13番目の方、整理番号33番、田中保治さんをお願い致します

田中保治

小野の田中と言います。よろしくお願い致します。個人的に思いますのは、ダムあり、なしと

いう論議の中で、一番考えますポイントとして、安全面というのがやっぱり最優先されるかと思えます。その中でやはり、先程来の話の中にダムによる治水・利水の有効性を考えると、皆様方のご意見のように大切かと思われまます。利用としてやはり農業また水道水など、様々な利用価値というのがダムの中に有効性として考えられます。前回地球環境ということで、長野市の方で、地球環境に関するデータというものが報告され、その話を聞きに行ったことがあります。その中で出たのが、中国での災害が人為的に行われたということが発表されました。現在、地球的規模で見ますと、大災害というものが、かなり人間の問題によって、自然発生しているということが、出されました。それを聞いた時に、今回の安全性、ダムの有効性を考えた時に、ダムによる有効性の問題と、もう1つ先程出されました断層という問題というのが私個人的には心配になりました。それで専門的な知識がないものですから、せっかく造ったダムというものがこの地籍の中で、地質的に耐えるものなのか。そして先程から、ダムの中に水が溜まるという有効性の中で、考えますと東海地震の問題とか起こりますと、ダム自体が地震による決壊というものが、ひどく悩まされます。そういったことで、是非、私達のような素人のものがそういった地質的なもの、そういったものの専門的なご意見も聞かして頂きながら、ダムが本当に有効にできるのかどうかという土台を、提示して頂きたいと思えます。

それと、ヒ素の問題です。私も住んでいる所がこのヒ素の問題の近くですが、全く知らなかったというのが恥ずかしい限りです。常日頃の一番の大事な問題がどうして今になって出てきたのかなあというのが本当に悲しい思えます。災害というのが何年に起こるかわかりませんが、普段の生活の中でわからないことが、降って沸くという恐ろしさを感じます。是非、そういったことでも安全に関わることはすぐにやって頂きたいし、知らせてほしいと思えました。

続きまして経済性の問題です。費用対効果という言葉が出てきます。これをやはり私個人ですが中々詳しいことがわかりません。それで、是非、言葉のもつ意味と、それと資料ができてくると思えますが、そういったことを多くの人達が費用と安全というものがどうなのかということを引きちゃんと提示して頂きたいと思えます。これからは、多額の借金を私達の世代、次世代が全て背負って行かなければいけない状況になります。そういった時に安全は確かに費用がかかるというのはわかります。ただ、安全がいかに私達の生活の中で、何処までがその税金の中で、安全を確保できるのかという見通しがきちんとたたるような説明を頂いて、是非、これからの皆様の部会、大変苦勞されていると思えますが、一般の住民ひとり一人にその辺が理解できるように、安全と経済性ということをご説明頂ければと思えます。よろしくお願ひ致します。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして14番目の方、整理番号5番、中村昭夫さんにお願ひ致します

中村昭夫

辰野町小野に住みます中村です。私はダム案ということで意見を述べたいと思えます。先ず、駒沢川についてですが、部会で示された資料NO.13に示されているとおり、非常に急流で水が少ないということで必然的にダムが必要かと考えております。また利水の面においても、地下水

よりも表流水の方がおいしい水が将来的にも安定的に、供給ができるのではないかと思います。また井戸水について必ずしも水質がよいとは限りません。将来性を見ても、何時枯れるかわかりません。1月の下旬の辰野の中央水源の事例もありますが、まだ原因は究明されていませんが、いずれにしても、井戸水というものは、将来的に維持費が必然的にかかって来ます。地域住民に負担が強いられると思います。霧訪断層のそばに、春宮の地籍に井戸を掘るということでありませけれども、その断層のそばに果たして井戸を掘って地殻変動がなく将来的に安定した水が得られるとは思いません。何時水が枯れるとは誰も保証はできかねると思います。

1つ実際私が体験したことを述べたいと思います。これは1984年の9月14日8時48分です。これは長野県西部地震の発生した時です。その時私は国鉄にいまして藪原にいました。それで岐阜の国鉄の先輩が退職して、何かということでもって藪原のスキー場の近くに民宿を始めました。そこへ釣堀を兼ねて、鱒の養殖を始めましたけれども、その地震から3日経ったら、水は細くなり1週間で全く枯れてしまいました。そういう中で、地震による地殻変動がないとはい切れません。地殻変動があれば必ず水の道は変ると思います。だから地下水よりも、表流水の方が将来的にも安定的に供給できると思います。是非、ダム建設をお願い致します。以上でございます。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして15番目の方、整理番号30番、百瀬深さんをお願い致します。

百瀬深

私は辰野町の上辰野の百瀬でございます。駒沢川ダムの建設に反対する立場から意見を述べたいと思います。

先ず第1に、何故、駒沢ダム建設が出てきたのかということであります。私は辰野の議員を長らくやらせて頂いております。実は今から15年程前から、今はなき県会議員の宮澤次男県議から、小野駒沢に15億円ぐらいかけて砂防ダムを造ったらどうか、百瀬君賛成してくれや、との話がありました。この話の中で約15億円ぐらいの砂防ダムを造り、この内の1割を地元負担し水道水に使ったらどうかとの話であります。この話は小野簡易水道審議会でも、議論をされたこともあるわけであります。しかしながら、その後この話も何時の間にか断ち切れになってしまいました。したがって、今日に至ってこのダム計画が何時の間にか知らない間に50億円と言われる大規模のダム建設になるとは想像すらしなかった訳であります。このダム計画がどのような経過によって、出されてきたのかの、その経過について、先ず私は明らかにされるべきだと思います。しかもこのダム計画については、平成10年11月26日に行われた、地元小野地区の駒沢川ダム対策委員会の結成総会でこのダムの計画が地元住民に知らされたわけでございます。ところがこのダム事業はすでに結成の5年も前に平成4年より調査費がつき、事業が始まっており、今までに3億以上の費用が投じられた訳であります。正に地元の大半の住民が知らない内に、15億円の砂防えん堤が何時の間にか60億円のダム建設計画になってしまう。こんなことがあって良いのか。誠に誠に不思議なダム計画と言わざるを得ないわけでございます。

第2の問題は横川ダムとほぼ同じくらいのダムを造っても、本当に水が溜まるのかどうかの疑問であります。問題なのは、駒沢川はご存知のように夏の湯水期にはほとんど水は流れません。このことは地元の人には知らない人はおりません。多くの地元のみなさんは、横川川と水量を比べてみれば、一目瞭然であり、どう見てもあの川の水量では、水は溜まらないと思うのが当然であります。私と同期に町会議員をやりました今はなきこの地元の小野隆司議員は、あんな所にダムを造っても水は溜まらないよ、と言っていたのが今でも思い出されるわけであります。このことから見ても何故このダムが計画されたのかが、不思議でならないわけでございます。

第3の問題は、以上からもこのダムは正に無駄なダムだということは明らかであります。確かに小野地区の皆さんが求めています水道水の確保は必要であることは明らかです。それは下町の水源や水質の問題で他の水源を求める必要があるからであります。だからと言って水源を駒沢ダム以外にないという議論は正に的外れであります。国民の税金が無駄なダムに使われることは、納税者として認めるわけにはいきません。水道水については他の方法、地下水の他に求めるとか他の河川による水源を求めるかについては、今後検討し、しかるべき工法を選択すべきと思うわけであります。すでにこのダムの検討委員会でも明らかになっていますように、ダムからの水道水の確保と、地下水の確保と比べ、地下水での水の確保の方が半分の費用で済むというのが報告であります。したがってこのダム計画について、白紙に戻し中止すべきであることと水道水確保の為に費用については、県として、是非、応分の援助をお願いし、私の意見と致します。

藤原部会長

どうも有難うございました。16番目の方をお願いしますが、実質15番目なのです。この15番目の方の公述が終了したら、10分間ほど休憩をすることに致しますので、よろしくお願い致します。では16番の方、整理番号24番、桜井保雄さんをお願い致します

桜井保雄

私は下町に住んでいます桜井保雄と申します。ダムによらない方法で何とかならないものかという立場から、意見を述べたいと思います。

最初に触れたいのは、今日の県の財政の状況です。さっきどなたかが申しましたので、詳しいことは割愛させていただきますが、自分のお家に例えれば、ものすごい借金、ローンを抱え、更に高級車を作るのかどうなのか、言うならばもっと高価な買い替えして益々借金を増やすのか、いうことになろうかと思えます。それはできないと思うのです。今の長野県の状況からして、やっぱり身分相応のそういうことをすべきではないかということを最初に申し上げておきたいと思えます。

私は専門家ではございませんが、色々ダム問題の中で、よく出てくるのが基本高水という問題だと思っております。素人考えで皆さんからご批判はあろうかと思えますが、私なりに意見を述べたいと思えます。先ずはこの基本高水と治水、これがどのように長野県下では行われているのだろうか。2、3の例だけです。1つは辰野町の中央を天竜川が流れております。委員の皆さん、此処にお集まりの皆さんもご存知だと思いますが、あの天竜川の基本高水は600トン/毎秒流れる。辰野の護岸改修どれくらいでやっていますか。400トンですよ。400トンの放流に耐え

られる河川改修をやっているのです。基本高水の水が流れたら、200トンの水は辰野の町を襲うわけです。これから比較して、今、此处で論議されている問題、52トンが基本高水で流れます。水が溢れます。これが大問題になって、嵩上げをするのだ、するのだと騒いでいます。だったらあの200トン溢れる天竜川を何で嵩上げしないのですか。私は町民として非常にいつもこの基本高水を論議している中でそういう問題が疑問になって仕方がないのです。ダムになると基本高水、一滴も残さず流さないといかんと、こういう論議なのです。河川改修はそうじゃないのです。この辺を委員の皆さんにもまたお集まりの皆さんにも、是非、考えて頂ければありがたいというのが1点です。

2つ目。辰野町降雨量がどれ位あるだろうか。そこで果たしてこんな大きな基本高水が流れるのだろうかという問題です。昨日たまたま雨が降りました。此处にいる皆さんも委員の皆さんも、あれをどの位の雨だと感じたでしょうね。私もせっかくの良い機会でしたので、早速、辰野の消防署に電話で聞いてみました。3時とか夕方ちょっと強めの雨でしたけれども、消防署の観測だと弱い時で1時間あたり3ミリ、強いなあというところで1時間あたり5ミリだそうです。その総雨量がどれくらいになったかは、今朝、確認してございませんでしたけれども、少なくとも、5.6ミリというのはあの位の雨の降り方だと体感的にわかりました。委員の中で配られていますこの表ですけども、雨が降って基本高水を設定する為に、どういう例をとったかというのが委員の皆さんにお配りされていますが、ほんの一瞬確かに36トンはオーバーしています。しかし全体的に見れば、24時間で175ミリという例をとったとありますが、単純に直すということは色々問題があるかと思いますが、少なくとも昨日くらいの雨が24時間降ったというのが、175ミリ/24時間、こういうことです。そういう中で、先日、基本高水の集水面積が変更になったということで部会がありましたので、私も参加しました。この委員の方のほとんどの方が参加してその場所でこういう地図を渡されました。この色を塗っている範囲が駒沢川に流れない。私も思いました。昨日くらいの雨が降った段階で、この地籍の水が果たして言われているように、そちらの川へ流れ込むのかということは、甚だ疑問でなりません。そういう点で、水はあくまでも高い方から低い方へ流れるものなのです。そういうことで是非とも集水面積も加えて検討をお願いしたいと思います。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。先程も申しましたけども、これで15人の方の公述が終わったわけです。後17～18人の公述がありますので、此处で10分ほど休憩致しまして35分から再開致しますので、10分間休憩をとります。よろしくお願い致します。

休 憩

事務局（田中治水・利水検討室長）

それでは、公聴会の方を再開致しますので、席の方へお戻り頂きたいと思います。

藤原部会長

公聴会を再開致します。先ず17番の方で整理番号2番の春日武さん、お願い致します。

春日武

小野に住んでいます春日と申します。私は駒沢川ダム建設に賛成の立場でございますけれども、この検討委員会の運営に対して少し疑問がありますのでその辺を追求したいと思います。

私は駒沢川の治水・利水の為には、是非ダムを造って頂きたい。50年、100年に一度の災害防止のため、駒沢川ダム建設に多額の投資に対して疑問を投げかける委員があるが、小野の住民としては過去の災害の教訓から、安心して住むことができる生活環境を構築しなければならないと考えております。ダム建設問題に対する十分な討論が尽くされたとは受け止めかねます。検討委員会がこの農民研修センターに移った、第3回より毎回傍聴しておりますが、主催者側の予定路線に沿った、田中知事の脱ダム宣言に沿った、セレモニーの為の検討委員会であると強く感じました。検討委員会の特別委員の構成からして問題であります。特別委員の中には小野には住まない人が2人混ざっております。また、ダムを造っても水が溜まらないと、今日も出ていますが、論拠のない素人の持論を展開している委員に対して反論もさせない。また、我々傍聴していてもその辺がわからないという、またそれが検討委員会はダム推進、反対の具体的討議のないまま、代替案を無理矢理提出させる検討委員会の議事運営の手法は、正に田中路線の目的に合致しており、これこそ、税金と時間の無駄使いの典型であります。地元の総意であります、田中区長、赤羽小野簡易水道運営審議会委員長、それから小澤駒沢川給水受益者代表が述べたことを、最大限尊重して、代替案は一時しのぎでありまして、最終的にはダム建設が最良の治水・利水対策であると考えています。以上であります。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして18番目の方、整理番号29番、川村豊さんをお願い致します。

川村豊

私は一昨年の初夏、つまり2001年5月26日に現地を見学して、一言、駒沢ダムについて主観的ではありますが、意見を述べさせていただきます。

まず、現地に到着して周りを概観して思ったことですが、奥行きもあまりなく、しかも狭い谷間という印象でありました。美しいこの谷は木々の緑は高く、尾根まで続き、その上にきれいな青空が広がっていました。ここへ45.7mもの高いコンクリートのダムができればどうなってしまうのか。大変驚きました。

さて、目を足元の砂防えん堤の方へ向けて見ました。するとえん堤の上と下に池のような水溜りがあり、順次流れが下に向かっていました。正直なところ、この少なく細い水量で予定通りの貯水ができるのか。1.39km²の集水面積のところへ45万トンもの水が確保できるか。専門家でない私にはよくわかりませんが、このダムが満水になるのにどのくらいの期間が掛かるのか。何ヶ月か何年かをお聞きしたいと思います。私の考えでは満水までには恐らく相当の時間が掛かることだろうと思います。また、本当に水が溜まるか極めて疑問に思った次第であります。

さて、次に長期間掛かって溜まった水ですが、よどんだ水はおいしいだろうか。まずくて飲料水としては不適當ではないだろうかという点です。ダム周辺には数々の動物が生息しています。サルやイノシシやカモシカなどの糞や死体でダム湖が汚染されることはないだろうか。また、予想もしないプランクトンが増殖し、複合的に水が汚れることはないのか心配になりました。飲料水として使用するのにはそれ相応の施設が必要になるでしょう。それらの施設に掛かる費用の地元負担が思いやられるところです。また、水道料金への跳ね返りも心配になります。

3、次にダムを建設することにより周辺一体の自然が破壊される怖れがあります。多くの動植物の生態系に与える影響は計りしれません。一度壊れた自然を復元させるには長い歳月が掛かり、容易ではないでしょう。多くの費用と労働力が必要なことは広く知られるところです。私たち大人には美しい自然や環境を次の世代に残してやる責務があるのではないのでしょうか。お互い心したいものです。

最後にダムについての危惧される問題を考えてみました。ダムの最大の弱点は一般的には土砂の堆積です。土砂の堆積が進むことにより貯水機能が減少して、やがてダムの寿命が来ます。大きなダムでは平均80年程度と聞いています。土砂で埋まったダムはただの巨大な危険物、産業廃棄物として存在することになり、埋没したダムの本体は土砂の圧力で崩壊する危険があります。子供たちの代に危険なツケを残さないことが大切ではないのでしょうか。60億円もの莫大な費用を掛けて造るダムよりも駒沢川を取り巻く山や林に計画的に手入れをして、保水力のある緑のダムにしていくことこそ最も大事なことはないのでしょうか。

私の素人的な感想ではありますが、以上の観点、視点よりコンクリートによるダム建設には賛成できません。ここにダム建設反対の意思を表明して公述を終わります。

藤原部会長

どうも、有難うございました。続きまして19番目の方。整理番号9番の青木新一さん、お願いします。

青木新一

地元の青木新一でございます。小野の地に60年余、米を作り、山を育ててきた経験を基に意見と要望を申し上げます。

まず、水不足が深刻な地域であるということを知って頂きたいと思います。小野盆地は周囲を比較的低い峠に囲まれて古くから交通の要害として栄え、信濃の国二ノ宮である矢彦、小野の両神社が祭られ、江戸時代は天領でありました。周囲を分水嶺に囲まれた小さな盆地でありますので山は浅く、他所から流れてくる水はありません。狭い盆地に降る雨が全てであり、渇きに悩まされてきた古い歴史があります。戦時中、食糧増産のために農家へ出役を割り当て、人力によって現在の細洞ため池を造り、大切に使ってきました。一番水が必要なしろかき時期に駒沢山の雪解け水を溜めて、温めておいた細洞の水を上から順次、栓を抜き、駒沢川の水だけでは足りない分を補給して、まず、粗代を掻き、本代、田植えと共に使うので細洞を使い切る訳にはいきません。細洞は全部、使う訳にはいかない訳でございます。非常用水に一定の量を残さなければいけないので、必要最小限の栓を抜いて1枚の田を水口から順に代を掻いて水が充分にありません

ので、下畦まで水が廻るのは次の日でなければしろかきができないのであります。次に水が要るのは梅雨が終わる頃、稲の幼穂形成期です。7月の10日から20日頃であります。標高850mの高冷地ですから幼穂を守るために深水管理が欠かせません。続いて、減数分裂期、出穂期を経て、お盆頃に穂が出揃います。米作りにはこの幼穂形成期から出穂5日後くらいまでが最も水が必要な時期であります。更に登熟期にも一定の水が必要になります。空梅雨で水が足りず、十分に実が入らなかった年が過去何回もありました。現在では稲の品種改良もされ、米作りの技術も向上しました。何と言っても米余りによる減反率の目標が4割という時代になってしまいました。毎年のように繰り返されてきた水争いも一頃のように比べれば少なくなりましたが、食糧が不足する時代は遠からず、きっとやってきます。いつまでも低い自給率のままでは日本という国が続いていけるとは思いません。その時に現在、水道水源にも廻している駒沢川の水が足りなくなることは必至であります。水の確保は正にこの地域の生命線であります。私は長年に渡り山林組合の仕事にも携わってきました。山は育てれば育つほど土砂を止め、水を蓄えます。しかし、干ばつの年には山が水を吸ってしまい、湧水を深刻にしていることも事実であります。駒沢山からの湧水も細くなりますから、普段、飲んでいられる穴場の口元の水源から干ばつ時には1日に何百トンもの湧水が取水できるはずはありません。以上で時間が来ましたので省略します。

藤原部会長

どうも有難うございました。時間ばかり迫りまして申し訳ありません。すみませんでした。続きまして、20番の方。整理番号31番の桜井はるみさん、お願いします。

桜井はるみ

平出の桜井はるみといいます。よろしくお願いします。ダムなし案に賛成の立場で述べて見たいと思います。

最初の治水対策についてですが、過去の洪水を見ても土砂流出、田畑冠水と大規模な被害ではなく、部分的な被害、改修で済んでいると思います。また、駒沢川の洪水被害についてですが、災害表を見ても護岸整備が進んできた中で、最近では私の記憶でも頭首工の改修が進み、そこを現場視察に行った点もありますが、そして、現在ある取水の堤防を改修し、土砂を取り除くことを考えれば、貯水能力の向上ができると思います。今後の課題としては、更に護岸の整備を行うことにより、治水対策に関しては充分であると思います。また、降雨量の解析、基本高水の設定についてですが、過去の実績を参考にしたいと思いますが、小野地区のデータとしての算出ではなく、周辺のデータを参考に雨量の決定をしているのであるとのことであり、無理があると考えるのであります。地形的に見ても駒沢川に流れる雨量、高橋川へ流れる量、両方の分析検討をし、分析の見直しを検討を行うべきではないかと考えます。この調査をすることにより基本高水の変動があると考えられるし、ダムが本当に必要なのかも、また、無駄な工事、税金の使い方になってしまうのかなど、検討委員会の責任として再度調査すべきであると考えます。

そして、利水についてであります。農業用水の確保、駒沢川の水をため池に導入し、確保し、特に春先のしろかき等、大量に使う時期に備えられるようため池の改修を行うことで対応できるし、また、最近言われる遊水地、その検討もするべきであるとか、そういうことも頭に入れても

いいのではないかと考えます。

それから、飲料水について新たな水源を求めることが大切ではないかと考えます。近年、表流水には原虫など健康被害が報道される中、良質な地下水を求めるべきであり、小野地区においては豊富な地下水を有する地域とされており、将来を見ても安全な方法を探っていくべきであり、費用についても地元負担等も考えるべきではないかと思えます。ダムなし案、ダムあり案としての対策案が示されていますが、地元にとってどれが有利なのか、税金がどう使われていくのかと真剣に考えていくべきではないでしょうか。お話によりますと細洞のため池は断層の上で危険、駒沢ダムは500m離れているから良いという判断は如何なものかと考えます。小野地区の住民の皆さんが大災害からどう地域を守るか、また生活に大切な水をどう確保するかを見れば、ダムなし案で進めていくのが妥当ではないかと思えます。

また、新聞報道では2月21日の県治水・利水ダム等検討委員会で県がダム中止後の支援ということで、整備資金補助制度の支援策が出されており、よそ者が口出しすると言わんばかりではありますが、こういう中におきまして、この制度などそれからまた、今までの皆さん方のお話などによりまして、駒沢川部会で検討されてきた結論としてダムなし案を採用することを強く望みまして終わります。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして、21番の方をお願いします。整理番号10番の小野文良さん、お願い致します。

小野文良

地元に住みます小野文良です。私は科学的な発想とか、或いは数字的な資料が非常に乏しいなかで体験的に生活実感から現状を述べるとそういう程度になりますけれども、よろしくお願い致します。

これはダム賛成の立場でございます。昭和の初めの頃から大雨の折には流域、先程からもお話が出ておりますけれども、流域の田畑の流出、或いは立木の倒伏などとそれによって大変悲惨な例も知られているところであります。現在でも少し雨が多いと土手が削られ、或いは山が削られ、木が倒れて流れが、絶えずと言ってはちょっと言い過ぎですが、変わっております。そして、河床が上昇して取水ができなくなって、毎年、このところ私はすぐ近くなものですから、パイプを設置して取水しないと近くの間がどうしてもだめだということで、毎年、町にお願いしてパイプを支給して頂いて、それが段々段々、上の方登っていってしまうと、そういうのが実情であります。

それから農業用水の面ですけれども、細洞の話もさっきから出ておりますけれども、地域の係としまして細洞の水の管理を担当したことがあるわけですけれども、これは先程からお話が出ておりますように駒沢川の足りない部分を補っているわけですけれども、下の方の水田の水の状況を見ながら調整していきまして、どうしても足りないという声があれば、それに基づいて地区の最高の責任者と、或いは他の係と相談しながら水を送るというような気の許せない毎日でありました。この少ない水で下の方の皆さんはよくやってきたとこんなふうに思います。現在でも水争い

と言いますか、そんなようなことも争いというほどじゃなくても夜中に行き入れてくるとか、そんなことも現実にはあるようであります。要するに水が足りないということなのです。

それからもう1つ、私の家はこの駒沢川水系の1番上にある家なのですが、水道用水を取っている者として、最近ではなくなりましたが、渇水期には断水の被害を被るのが1番最初なのです。そんなことを何回も経験しまして、現在では他の水源から補給して頂いているようですので、断水ということはないわけですが、これも先程からお話が出ていますようにヒ素だとか、或いは非常に水質の問題が言われております。非常に心配になるところであります。小野地区に住まない方も今日は何人かいらっしゃるわけで、その意見をお聞きしていても、やはり地元でなければわからないなあというようなことを仰っている方も何人もいらっしゃるなどこれは実感として感じているところであります。要するにそんなようなことで現状としてはやはりダムを造って頂いて、水の確保をしっかりとしてほしいという立場であります。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして2番の方にお願います。整理番号4番、田中正規さん。お願い致します。

田中正規

私は小野に住みます田中正規と言います。私の考え方はダム以外にこの駒沢川の治水・利水の方法はないという考え方でございます。私は何回も検討委員会に傍聴に来ました。委員の皆様方の意見、非常に有効な価値ある意見もございましたけれども、小野の地形、地域、水質等について認識が私と温度差があるということを感じました。非常に残念でございました。これが私が検討委員会を傍聴しました感想でございます。委員の方々が寒い海拔800mの小野地域に雪の中、現地調査を本当にご苦労さまでした。小野地区が理解され、私たちの気持ちを汲んで頂ける姿かと感謝しております。

さて、2月25日、取水面積のことで現地調査をされました時に検討委員であられ、それから町会議員であられます根橋先生と私も同行しました。その時、用水路のコンクリートに真っ赤になっているところを見て、「あれ赤錆だね」と話した。それから、最終地点の田んぼの用水を見て、赤へど。そして、「あれは鉄ですね」と言った時、先生は何か横の方へ行かれてしまった。非常に私は残念です。私も辰野町の町民です。町民の気持ちをよく理解し、ご支援をお願い致します。

さて、春宮水源付近のことでございますけれども、これは唐沢川沿いでございます。駅の付近からずっと上がっている川でございます。50年ほど前には駅の付近にはツキ井戸がございました。そこで自噴をしておりました。しかし、そこも赤錆でした。その唐沢川に沿って登って行った中間が私の家です。私の家の井戸も赤錆です。それから山の付け根についたところ、そこが私の作っている田んぼでございます。そこも赤錆でございます。素人考えですが、駅から山の付け根まで赤錆の出ている土地で良い水が得られるか。素人考えではきっと出ないではないかと私は考えております。私が通学の時、よく列車の中で小野の子供たちの白いシャツは黄色いシャツだと言われました。黄色いシャツの子供たちが乗ってきたと言われたのを私はこの言葉を思い出しました。水質のことはわかりません。井戸の深さ、水質等、わからないようなものを掘って探す

よりは、今、流れている、水質のわかっているものを使う方が一層合理的ではないかと私は考えております。

それから、小野に住む者の生活用水の不足、田んぼの水の不足。霧訪山の天辺に降った雨がわずか46分で小野川へ流す。そのことにあるかのではないかと思います。過去に駒沢川に幾多の災害がございました。それは42年頃からの資料の中にございます。それ以前から言いますと36の頃にもあったのではないかと私は思っております。災害は一時的に水量が増加することにあると思います。それによって発生しています。現在の科学で想定しても、土木技術をもって自然には勝てません。計算はできません。これが自然なのです。霧訪山の天辺に降った雨を45分で小野川へ流すのではなくて、2時間掛けて流す。災害防止ができると私は考えております。天辺に降った雨を走らせることなく、途中で一休みさせ、歩かせること。これが災害を防止することです。天竜川は昔、あばれ天竜と言われました。しかし、釜口水門が開場されてからは、静かな天竜川になったような気がします。やはり、早めの放流と早めの貯水。即ち、水量調節することから災害は防いでおります。駒沢川を早めに調整すれば、JRの鉄橋の下をゆっくり流れ、小野川に合流できるかと思います。水量調査の方法、ダムもあります。建設で駒沢川の安全を確保され、住民の安心できるようにして頂きたいと思います。委員の皆様方、それから委員長さん、是非、ダムと井戸との併記をすることではなくて、どうかダム案1本でまとめて頂きたいと思います。交通標語にこんな言葉がございました。狭い日本、そんなに急いでどこへ行く。これを当てはめるならば、霧訪に降った雨、そんなに急いで何をします。また、考え方によれば、駒沢川、ゆっくり歩こうタノメのため。ご清聴ありがとうございました。

藤原部会長

どうも有難うございました。次は23番ですが、整理番号16番の竹澤長男さん、お願いします。

竹澤長男

私は地元に住みます竹澤長男と申します。特に地元も地元、駒沢川の上流域に住んでいる者です。地形が非常に駒沢川というのは急峻なために台風や梅雨時の雨で豪雨にでもなれば、一気にその水が駒沢川に集中し、そのたびに流域における山腹は削られております。小野川合流点より逐次、河川工事がなされておりますけれども、とても追いつける状態ではありません。それより上流では雨が降るたびに必ずどこか山腹が崩れているという状況です。また、その山腹の崩壊によって、或いは根こぎになって倒れてきた木によって川の流れが変わり、その川の流れが反対側の田んぼの土手にぶつかるわけです。そうすると必ず畦畔が崩壊するというのが、ここ数年の状態であります。また、流れが非常に早いと河床の侵食が非常に激しく、折角、護岸工事をされておるわけですが、その根っこにあります土が洗われてしまって、護岸全体が陥没してしまうという被害も最近あります。その証明は資料の13というページがありまして、そこに流況とかそれから洪水到達時間という表で明らかでないかと思っております。また一方、一週間ぐらい日照りが続けば、即、川の水がなくなり細洞、或いは大洞というため池が2つあるのですが、その水が終わってしまえばどこにも水はなくなってしまうと。当然、田んぼの水の取り合いとかいう喧嘩に

なります。これは日照りが続けば毎回のことであります。ですから、検討委員の中に河合さんという方がいらっしゃるのですが、その方が今、細洞のため池の水の管理をしているわけですが、あの方は本当にまていな方で、一旦、下流から要請があって水を切るわけですが、一旦、水を切っても夜間は水がいないわけですから、身の危険も顧みずもう一遍その水を止めに行くと。そのぐらい細洞の水を大切にしているという人です。たまたま今日は病気でふせっておりますけれども、しっかりやって頂いております。よって、豪雨時における洪水、そして湯水時における水不足。このギャップを埋めるためには、是非、ダムが必要だと思います。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして24番の方ですが、整理番号1番の宇治元一さん、お願いします。

宇治元一

私、小野下町に住んでいる宇治元一といいます。率直に申し上げるというので、率直に私の意見を申し上げますけれども、24番目ぐらいになるとほとんど私の考えていることが出尽くしておるわけです。私もじっとこの皆さんの話を聞いておりました。賛成意見も反対意見も本当になるほどだなあと納得のいくものがあります。だから、私が一番心配するのは、実は検討委員の皆さんが、ここで公述した皆さん方の意見を本当にポイントを押さえて意見集約できるだけの技量を持っておられるかどうか。実は私、ここを一番心配しているのです。実は行政というのは予算主義ですね。60億というのを引っ張り出して大きい、小さいといいましたけれども、国の予算は84兆。長野県は少し減りまして1兆円を切りまして9千5百億。その中で各種の予算を積み上げてくるわけです。その中で出た数字がたまたま60億。小野に60億はけしからんというけど、それは関係ない。いわゆる土木予算の中から出てきた数字ですから。そのように捉えていかなければならない。それから、これは行政ですから、常に停滞しないで流れているわけですから、まず、ダム案という1つのダムによる治水・利水という1つを吉村県政の時代に作り上げてきた。これを変更しようというわけです。変更するからにはしるべき確たる理由がなければなりません。それは地域住民を含めて、住民の皆さんの中の納得のいくだけの議論を積み上げないまま変更してしまうということになれば、それはどういうことかというと、委員会に対する不信任、それから行政に対する住民の不信任が出てくるわけです。だから、これだけはどうしても避けなければならない。いいですか、ここなのです。だから、ダムがいいとか悪いとか言っているのじゃないのです。1つの政策を打つ時には必ず住民の合意形成を得ていかなければならぬ。それだけの資料というものははっきり明示させなければならぬ。それには必ず予算がついていくということなのです。だから、予算ということも大切な議論になるわけです。これは率直な予算として60億がついていますよね。今、田中さんは公共事業を何とか50%に減らしたいと。あの人は知事ですから知事の意向が働くわけです。お互いに予算編成を行く中でこの小野区については区長さんの意向というのは働くし、辰野町は今回74億何千万、新年度予算ですけど、最終的には町長さんの意向というものがいわゆる予算に反映してくる。これはやっぱり管理者としての責任。じゃ長野県の予算はどうするか、最終的にはこれは田中さんの意向がここに働いてくるわけです。

だから、これはペーパーテストして をつけてどちらか出せと言えば、これはダム案の方がいいに決まっているのです。これは今の書類見ましたけれども、問題点というところを見れば、ダムによらない治水・利水の方が問題点というところに多く書き込まれているのですから。問題点の多いほうが政策的に劣るということです。ダム案の方の問題点というところを読んで見れば、環境保全、対費用効果、その2点だけです。ダムなし案の方を見ると、問題点がいっぱい書いてある。だから、ダムなし案というのはいかに未熟であるかということです、現時点において。それははっきりしているわけです。問題はここなのです。だから、私は拘らない。大事なことは何故こんな代案しか出てこないか。これは私の想像ですよ。というのはこの委員会の中に党利党略、私利私欲を持ち込んでいる。田中さんを利用して、お互いが、いわゆる各党、各党派、個人がいるんなものを持ち込んでいて、本当の住民の意見、住民の考えていること、住民益というものに対して耳が向いていないのですよ。私が一番心配するのはここです。これだけ何回も委員会を重ねておきながら代替案を読んで見て、私ははっきり言って失望しております。何故、これだけ時間掛けてあの程度の代替案しかできないのか。わかっているのじゃないですか。水がないというのはわかっているのですよ。利水が水がない、農業用水もない、渇水期に水がないのですから。飯沼川の維持流量が確保できていないのですから。いくら立派な河川改修をしたって水が流れなければ自然保護はできないのですよ。ですから、年間を通じて維持流量を確保しなければならん。水道水についても安心して安全な水を飲まなきゃならん。そのためのしっかりした水源を確保しなければならんということなのです。そのことがちっともおわかりになっておらないのです。いいですか。60億はかかる。だから、半分にしたいということなら、30億という予算を確保する。そして、30億の中でしっかりした小野の治水・利水計画をばちっと出さないよ。それがお金をかけてやった委員会の皆さんの最大の責任ですよ。それだけを申し上げて終わります。以上。

藤原部会長

どうも有難うございました。次は25番目の方ですが、整理番号35番、百瀬政子さん、お願いします。

百瀬政子

私は上辰野の百瀬と申します。私は駒沢川ダム建設に反対する立場から発言致します。昨年、駒沢川にダムを建設する計画があると聞きまして、現地を見に行きまして大変驚きました。何故、あの水量の少ないところにダムの計画が出されているか。果たして水が溜まるのか心配ですし、飲み水としておいしいのか大変疑問です。既に平成3年の小野地区電気探査報告書で春宮や中村で400トンから500トンの水の可能性が報告されています。今後、水質検査を進めて水が確保できれば、60億円という莫大な税金を使うより、他の地下水を得る方が良いと思います。現在、長野県は深刻な財政状態にあり、田中知事は借金を減らすために努力をしているところであり、このダム建設に60億円ものお金を使っていいものでしょうか。それより、身近で不足している福祉施設や生活道路である153号線を早急に改良してほしいと思います。とりわけ宮所から小野にかけての国道は道が狭いばかりか歩道すらないところもあり、安心して国道を歩けない

状態です。こんな中で死亡事故が度々発生しています。また、ダム計画地から500mのところ
に霧訪山断層があるとのことですし、最近、マスコミでも盛んに宣伝していますが、東海地震は
近いとも言われています。地震によりダムの決壊も考えられ下流住民に大きな被害が出ることは
明らかであります。

以上の点から私はダムによらない治水・利水を検討して頂くようお願いして、私の発言を終
わります。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして26番目の方ですが、整理番号27番、永原幸男さん、
お願いします。

永原幸男

私は伊那富に住みます永原と申します。私は小さい頃、北小野に生まれまして、両野小学校を
卒業しました。当時、小学校の頃は遊びと言えば、川へ行って魚を捕ったりということで、この
駒沢川、自転車で出かけてはアマゴ、こちら辺ではアメノと言うのですけれども、アメノを手掴
みで捕ったり、ドジョウや沢蟹を捕ったりして遊んだりしていました。また、秋になるとキノコ
を採ったりして山にも親しみ、本当に紅葉なんかを見た時にはいい所に生まれたなと子供心に思
ったものでした。そんな駒沢川の所にダムが計画されると聞いて驚いたわけでありましてけれど、
それで私なりにいろいろ調べて見ましたけれども、1つ注目したのは第5回の部会でしたでしょ
うか、松島委員さんから指摘がありまして、ダム予定地下流500m付近に霧訪山断層というの
が横切っているということでした。また、この断層は専門家から見ても断層のランクと言いま
すか、Aが2つ付いたAA、A、B、Cというランクがあるそうですけれども、A級という非常に
活発な活断層であります。伊那建設事務所の説明では、これは横切っているということでこれは
ダム地点に向かっているわけでないから安全だということですが、この断層は東側は霧訪
山の山麓を横切り、善知鳥峠の方へ伸び、糸魚川静岡構造線にぶつかっているわけでありま
す。更に西側へは木曽の藪原、木祖村、こちらの方の境峠断層。この境峠断層というのも非常に活
発な活断層であるとのことでもあります。このような断層と断層がぶつかっているようなところで、
本当に果たして大丈夫なのか。活断層は網の目のように互いに連結し合っていて、本当に大きな
地震があった場合には影響が出るそうであります。東海地震、または同等規模の地震が起きれば
ダム本体への影響が指摘されているところであります。この点でも部会では尚、詳細な検討が必
要とのことでもありますので、ここで結論を出すのはおかしいのではないかと思います。また、阪
神淡路の大震災でも地震の亀裂のあった、800mぐらい離れた所でもダムの損傷があったと聞
いております。辰野町も昨年、東海地震の防災強化指定地域になったということで大変不安であ
ります。先頃、中止が決定された長野の浅川ダムでも活断層との関係は大きな論議がされて
ダム中止の大きな要因とされたところであります。私は住民やまた、専門家の方たちの英知を結
集して是非ともダムなしで治水・利水を考えてほしいと思います。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして27番目の方、整理番号8番、小野尚一さん、お願い致します。

小野尚一

私は小野の休戸に64年間、現在まで住んでいる小野尚一と申します。駒沢川の水害、それから水田の水不足についてそういう経験をしてきました。それで、駒沢川が源流から小野川へ流れる距離が短いということ。それから、水田地帯の傾斜が大きくて、水の流れが速過ぎて、私ども水田経営者は水不足に悩むわけです。そういうことから小野の地形を見て、春宮に井戸を掘った場合、何年間、水が確保できるのか、それがまだ心配です。それと江戸の沢、堂林周辺の湧き水が枯れるという怖れがあるように思います。私の水田は堂林の南に位置する低いところに耕作をしていますので、その点、春宮の方で水を掘られるということは反対をするわけです。それと現在、現実に塩尻市の方では塩嶺トンネルの出水で水が減り始めていると、そういうことを聞いております。塩尻市でも他に水源を探しているというようなことも耳にしておりますので、そこら辺が水が確保できるか。それと学校の裏の中島水源とあって、そこが稼動した時に休戸の井戸水と湧き水が出なくなってしまう。そういう経験上、小野の地形はその高い所にあつて、水の流れが速くて溜まる水が少ないんじゃないかと思えます。それと駒沢川が小野川に流れる合流点の海拔とそれから春宮の予定地に井戸を掘って70mといつてもちょうど小野川の合流点あたりの海拔にしかならないと思えます。そういう場合、その小野の地形からいって水が溜まるかどうか、保証されるかどうかということが私は問題だと思えます。小野に住んでいた先輩たちは、その駒沢川とか高い所に水を溜めて地域の農業を営んできたということがわかります。細洞、大の洞、春宮、そういう各地にため池をもって農業を営んできております。そういう点で駒沢ダムの予定地の所にあつた遊水林という堤がございました。それは、大東亜戦争中、山を裸にするほど切つて、裸山になったためにその後、土砂が流出して現在のように埋まっております。そういう点で、私ども、山の組合員は現在、駒沢山を守つていこうということで、山林の育成もしております。そういう点では土砂の流出も相当減つてくると思えます。そういう状況の中から私どもは小野の地形を考えて高い所に水を溜めて生活を営んでいる。そういうのが昔からされてきた経過だと思えます。そういうことを私は述べて皆さんのご理解を得たいと思えます。以上です。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして28番目の方、整理番号25の杉江紀夫さん、お願い致します。

杉江紀夫

私は小野の押野に住む杉江紀夫と申します。よろしく申し上げます。小野地区の治水に関して私の願いを述べさせて頂きます。駒沢部会において種々検討されてきました案に対し、私の意見を述べさせて頂きます。

まず、結論から申し上げますとダムあり案に賛成致します。治水対策案のダム案に賛同致します。利水・治水を含めた多目的ダムが必要と願うためです。部会において検討され、従来からの

経緯、そして問題点等、いろいろと勘案し読ませて頂きましたのですが、小野地区には、28年頃前、塩嶺トンネルが開くということでその工事が始まりました。その時に渇水状態になり非常に水が不足して参りました。安全面におきましても有事の際に水が不足ということで、火災とかそういった時に非常に困るのじゃないかと。また、逆に河川が氾濫したり、流量の維持ができなくなるというところから確かに私どもはダムが必要だと考えております。

ダムの建設と投資効率というものを考えた時にその検証は確かに部会の皆さんで検討されているように必要かと思えます。これは絶対必要だと思えます。しかし、私も7～8年前、駒沢流域の地質調査、それからボーリング、ちょうど山林組合の役員をやっておりまして、名古屋からきた皆さん方にその辺の話も、一応、聞きました。その時には活断層が走っていると、そういう話はなくて、10年後には小野にも駒沢ダムができるだろうという期待感を持っていたわけです。そして、ダムができた暁には安心して我々が住めるという恩恵を受けられるという期待を持って参りました。その当時、執行部の方も国会の方へ何回か足を運び、陳情して参りました。これはダムができるぞという安心感を持って参りました。駒沢ダムの国のランク別でいいますと、当時、7～8年前はABCランクで言いますとEランクというようなランクだったということをお記憶に残っておりますが、そういった中で、私の職にあった関係、或いは将来の期待というものを持ちながらダムを是非とも造って頂きたいということで願うわけでありました。

地形的にも駒沢川は非常に急流でありまして、ダムを造った方が有利であると、物理的、科学的な分析は先生方のほうの専門な見地から頂いた資料から勉強させて頂くわけなのですが、確かに断層面でも井戸を掘って利水を作るというのも結構ですけれども、信頼性に乏しいのじゃないかというような感じを受けます。

それから、ご存知のとおり国の財政、地方の財政、誰もが認めるほど苦しい状態にあります。しかし、後世に残る子孫を考える時に絶対にこの投資効率、或いは安心して住めるというのは、私は確信できるものと信じております。どうか、前向きにこのダムありについてのご検討を再度お願い致します、私の意見と致します。どうも、有難うございました。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして10番の方で、先程おいでにならなかったので29番に廻って頂いた、整理番号22番の小野能正さん、お願いします。

小野能正

小野上町に住んでおります小野能正と申します。まず、初めにお断り申し上げておきますけれども、私の場合、自分の仕事柄、ダムができた場合、その仕事を続けることが不可能になる可能性があるというそういう利害関係のある立場にあります。ですので、私の言うことが説得力があるかどうかということはちょっとよくわかりませんが、このような公の場で自分の意見をきちんと通してと言いますか、出しておくということは必要だと思ひまして、公述させて頂きたいと思ひます。

まず、今回、駒沢ダム建設における住民合意形成について私は疑問を感じております。この問題に関し、確かに表立った反対は起きておりませんが、そのことイコール、ダム建設に我々住民

が全面的に賛成しているということでは決してないと私は思っております。確かに声を出して反対している人は少数だと思いますけれども、ダム建設に積極的に賛成している人々が少数であり、私も含め多くの人々は情報不足のため、疑問に思いながらも人間関係を悪化を恐れ、声を出せないでいるのが現状であると思っております。まず、大切なことはダムを造ることが目的ではなく、如何に社会的に低コストで、また、私たち受益者の負担が少しでも少なくなる方向で安全でおいしい水を得ることであると思っております。セキュリティー、そしてあの場所に造る費用対効果の面から見ても、私は代替案の方が優れていると思っております。先程、非常に貧しい代替案だというお話がありましたけれども、私からすると何であんな所へダムを造るか、そういうものが出てきたこと自体がナンセンスじゃないかと私は思っております。ただ、我々みたいな最上流に住む人間にとって非常にこれは思うわけで、私のようにほとんど鍛役に出ないで、いつも出不足を払っている人間が言うというのは全く失礼なことかとは思いますが、今回は契機に山林組合等、上流に住み、森を守り、水を守っている人々に対し、国土保全の観点からも、下流域、これは県外も含まれます、十分なコンセンサスを得て、水源税的なものを徴収するなど、財政的な方策を採ることを真剣に検討し、早急に実現していく必要性を強く感じております。まず、治水。それから、森を守るという言葉を田中知事も言っておりますけれども、それも財政的な援助があって初めて成り立つことだと思います。今回のような問題もそのようなことがかなり根強くあるのではないかと私は思っております。

まず、後世に選択肢を残すように我々のやるべきことは、今、自分がいい目を会うというか、便利さを追求するのじゃなくて、次の時代にいいものを残していく、次の時代に選択を残していく、そういうことが最も必要なことであるかと。今、いろいろと携わっている方にはそのことを強く思いますし、我々住民としてもしっかり勇気を持ってと言いますが、やはり、いろいろ恐れずに自分の立場、言葉というものをぶつけ合う、そういう必要があると思っております。その中からいいものが生まれてくる。それは確信しております。ですので、いろいろ意見をぶつけ合い、それがダムであろうが代替案であろうがそれはいいと思っております。皆で英知を出しつくしてやるというのが一番大切になります。しっかりとご検討を頂きたいと思っております。以上で公述を終わらせて頂きます。

藤原部会長

どうも有難うございました。続きまして30番の方ですが、整理番号17番の青木輝男さん、お願い致します。

青木輝男

上町の青木と申します。よろしくどうぞ。私はダム案を推奨致します。過去に大水害があったと先輩から聞いています。国道沿いの民家が浸水している、畑を掘ると下から砂や石が出る、水田も流出しその開田をしているため耕土が浅い。

2、良種な水道水を飲用したい。以前、飲用していた駒沢川水源は良かった。現在は下町水源のヒ素入りの水と聞き心配している。春宮耕地に水源を求める案もあるが、これまであの辺りの水は赤渋、鉄分の多い水と聞いています。

3、農業用水を充分確保したい。雨水も資源だ。貴重な雨水を流してしまうのはもったいない。これまで水田の水がないことがあった。小野は離島並に水が足りないので、是非ともダムが必要です。

4、町裏水路、宿場町の両側の水路で防火用、農業用、生活用の水は駒沢川の一番下流から取り水しているため水が少ない。丸山橋下の分水場で水の奪い合いがたまたまある。構造開田後、取り水が多くなった。

5、ダムは良質な地下水も多くなると考える。

6、ダムより通年、流出する河川も美しく、魚類も増え、昔の駒沢川が蘇ると思われる。

以上でございます。

藤原部会長

どうも有難うございました。山田幸男さんはおいでになっていますか。宇治當友さんはおいでになっていますか。横山和人さんはおいでになっていますか。有賀政一さんはおいでになっていますか。今、4人の方がおいでになっていないのです。それと、欠席を通知された方が2人おいでで、これで終わりでしょうか。今日、ここにおいでの方で、申し込みはしていなかったけれども何か5分くらいで自分の意見を言いたいという方、おいでになりますか。いいですか。わかりました。どうも、長い間ありがとうございました。これをもちまして公聴会を終了させて頂きま。皆さん方、議事進行に非常に協力して下さい、5分のうち超過する方がほとんどいなかったために、また、超過された方も自発的に途中でご自分で打ち切ってくれた方がおいでだったために時間内に終了致しました。今日の皆さん方のご意見というものは、8日に部会がありますので、その時に部会の委員の方といっしょに審議をする時に皆さん方からお聞きした意見も参考にしながら進めていこうと思っております。長い間、有難うございました。

事務局（田中治水・利水検討室長）

これをもちまして本日の公聴会を終了させて頂きます。有難うございました。

（ 終了 15：45 ）